

第5回所沢市放課後児童対策協議会

会 議 録

平成30年11月7日

様式 1 号

会 議 録

会 議 の 名 称	第 5 回 所 沢 市 放 課 後 児 童 対 策 協 議 会
開 催 日 時	平成 3 0 年 1 1 月 7 日 (水) 午後 1 時 1 5 分 から 午後 4 時 3 0 分 まで
開 催 場 所	市 庁 舎 低 層 棟 2 階 2 0 2 会 議 室
出 席 者 の 氏 名	(会 議 録 別 表 1) の と お り
欠 席 者 の 氏 名	宇 佐 美 由 美 子
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	こ だ も 政 策 課 主 幹 瀧 澤 恵 主 事 中 島 結 華 梨 こ だ も 福 祉 課 副 主 幹 廣 谷 貴 紀
議 題	(1) 答 申 (案) に つ い て (2) 開 所 時 間 に つ い て (3) 重 点 事 業 の 進 捗 管 理 重 点 事 業 4 「障 害 児 支 援 事 業」 (4) 「子 ども 子 育 て 支 援 に 関 す る アン ケ ー ト 調 査 票 案」 に つ い て (5) 視 察 障 害 児 支 援 事 業 「放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス き な こ」 (6) そ の 他
会 議 資 料	(1) 5 重 点 事 業 に 対 す る 委 員 意 見 一 覧 (2) 第 3 回 協 議 会 に て 視 察 し た 重 点 事 業 に 対 す る 委 員 意 見 一 覧 (3) 答 申 (案) (4) 開 所 時 間 資 料 (5) 平 成 2 9 年 度 進 捗 状 況 (個 票) (6) 意 見 提 出 フ ォ ー ム (7) 子 ども 子 育 て 支 援 に 関 す る アン ケ ー ト 調 査 票 資 料
担 当 部 課 名	こ だ も 未 来 部 青 少 年 課 青 少 年 課 課 長 森 田 茂 明 副 主 幹 奈 良 和 子 主 査 鳥 飼 謙 一 郎 主 任 相 笠 豊、小 貫 多 加 志 電 話 0 4 (2 9 9 8) 9 1 0 3

(会議録別表1)

所沢市放課後児童対策協議会委員 名簿

	種別	名前	出欠席 状況	所属等
1	(1) 公募による市民	宇佐美 由美子	欠席	
2		渡邊 広実	出席	
3	(2) 関係団体の代表者	高田 美智子	出席	民生委員・児童委員連合会（吾妻地区 会長）
4		渡辺 昭子	出席	青少年育成所沢市民会議（青少年育成 推進員協議会会長）
5		後藤 敏隆	出席	P T A 連合会（和田小学校 P T A 会長）
6		小野寺 耕二	出席	自立支援協議会（社会福祉法人藤の実 会）
7		金丸 慎一郎	出席	放課後児童健全育成事業者（株式会 社がくどう舎）
8		小沢 貞泰	出席	放課後こども教室実施校（北秋津小学 校ほうかごところとんぼキッズ）
9	(3) 知識経験を有する 者	笹井 宏益	出席	玉川大学学術院研究所教授
10	(4) 所沢市立小学校の 校長	鈴木 勢津子	出席	所沢市立小中学校校長会（所沢市立林 小学校長）

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>1 開 会</p> <p><input type="checkbox"/> 傍聴者入場（5人）</p> <p><input type="checkbox"/> 会議資料の確認</p> <p><input type="checkbox"/> 会議成立の報告 欠席者1名。出席委員が、委員総数の過半数を超えていることを確認し、会議が成立したことを報告した。</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 答申（案）について</p> <p>(2) 開所時間について</p> <p>(3) 重点事業の進捗管理 重点事業4「障害児支援事業」</p> <p>(4) 「子ども子育て支援に関するアンケート調査票案」について</p> <p>(5) 視察 障害児支援事業「放課後等デイサービスきなこ」</p> <p>(6) その他</p>
会長 事務局	<p>(1) 答申（案）について 議事（1）答申（案）について、事務局より説明をお願いする。 事務局より、はじめに重点事業に対する意見について、資料1-1と資料1-2（第3回協議会視察の意見）を使い紹介しながら、資料2に基づき、答申（案）について説明した。</p>
会長	<p>事務局の説明を確認する。</p> <p>① 意見が提案の内容に大きく影響を及ぼすと思われる場合には、この場で協議会としての合意形成を図る。</p> <p>② 意見が各論である場合には、特に合意形成は図らず、答申案への反映について会長と事務局とで協議する。</p> <p>③ とりまとめた案2は、後日各委員へ送付し、確認いただいた後、次回協議会で確定する。</p> <p>の3点である。この流れ等について意見や質問等いかがか。</p> <p>～なし～</p>
会長	<p>それでは質疑等いかがか。</p>

<p>委員</p>	<p>【重点事業１ 放課後児童健全育成事業 について】</p> <p>保育環境の改善についてだが、老朽化、狭隘化対策に関して、児童数増加に供給量が追いついていない。事業者側としては児童クラブにも生活クラブのような定員を示してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>市の条例の附則で、国の基準である1人あたり1.65㎡を当面適用しないこととしている。理由としては、国の基準を適用すると相当数の保留児童が出てしまうからである。現在は、供給量の確保に向けて最大限努力しなければならないと認識している。「所沢市子ども・子育て支援事業計画」の目標値達成に向け努力している。</p>
<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>国基準の150%のように少し幅を持たせる定員ではどうか。</p> <p>条例上は難しい。現在、入所申込の時期に、市と各事業者との間で保留協議を行っている。この協議の中で施設の規模に応じて、毎年実質的な定員を定めている。</p>
<p>委員</p>	<p>どのくらい定員オーバーしているのか。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば北野児童クラブは200%を超えている。それでも保留児童が出ている。</p>
<p>委員</p>	<p>私の子が小学生だった10年くらい前、児童クラブの指導員から児童クラブ利用児童数が全校児童数の10%を超えた、と聞いた。児童クラブ利用児童数は横ばいもしくは減少の予測だったが、実際には増加していることを考えると、供給量の確保について相当努力しているのではないかと。また、数字のとらえ方についてだが、一番子どもが来る日がいつなのか、と言うと、平日の放課後より夏休みの最初と最後の10日間が最も利用者数が多いと聞いている。また、1年を通してみると、習い事などで、徐々に高学年が減っていくこともあり、どのタイミングで利用数をとらえるかは難しい。</p>
<p>会長</p>	<p>定員は大事なものだが、あまり数字をいじるのはどうか。委員の言うとおり、供給量は限られているので、協議会としては、供給量をもっと増やしてほしいというスタンスで良いと思う。答申(案)では、供給量の確保を行う必要がある、というかなり厳しい表現を使っており、個人的には、この表現で良いと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>おっしゃるとおり、これから入所申込の時期でもあり喫緊の課題だが、市と保留協議を経て線引きする事業者としては、しんどいものがある。定員がしっかり示されていれば、少し楽になる、と考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>趣旨は市に伝わっていると思うので答申(案)の表現はこのままとする。</p>

委員	<p>【重点事業3 放課後子ども総合プラン推進事業 について】</p> <p>一体型は中富小と北秋津小の2か所あるが、現在でも明峰小のように、児童クラブとほうかごところが避難訓練を合同で実施するなど連携していて、一体型に近い所はあったと感じた。</p>
委員	<p>何をもちいて一体型や連携型とするのかについては線引きや定義が難しい。現場から見れば、一緒になって活動しているので、それぞれの現場で対処できていると考えて良い。あとは位置付けをして、何かしら定期的なものが固まってくれば、横へ展開して行けるのではないかと。</p> <p>ほうかごところが無い学校については、中富型をモデルにすることが含まれていると考えられる。中富は一体運営にすることからスタートしているが、他の所は既存のものがあるので、各地域の事情やニーズに合わせて丁寧に進めて行ったほうが良い。</p>
事務局	<p>実態は一体型に近いところもある。現場の人によるといくつか課題があり、一例として加入する保険の違いがある。一緒に活動している中で万一のことが起きた場合に、加入する保険によって対応が異なり責任の所在などの問題が起きる可能性がある。市では、今後こうした課題を解決しながら一体型・連携型を推進して行きたいと考えている。</p>
会長	<p>答申（案）には、一体型・連携型をさらに推進する必要がある、と記載されている。これは、一体型・連携型という区別をするのではなく、これまで別個の活動だったものを、協力して活動する方向へ変えていくことが望ましい、という趣旨だと思うので、答申（案）の表現はこのままで良いのではないかと。</p>
委員	<p>本校は、ほうかごところ、児童クラブ両方あるが、一体型ではない。あまり一体型を進めると、有料となる部分が出てきて負担が大きくなる家庭も出てくるので、一体型ではなく、連携型のように棲み分けできているほうが良いと感じる。</p>
委員	<p>一体型・連携型という用語は国が作ったもので、同じ敷地内にあれば一体型、少し離れていれば連携型、と呼んでいる。答申（案）の表現で注意深く見なければならぬのは、中富型だけ一体運営という運営のことに言及している点である。今後ほうかご広場を展開して行く時は、一体運営に限定しなくても良いのではないかと。既存のクラブと一緒にほうかご広場をやって行く、というように様々な形を可能にする表現にしておいたほうが良いのではないかと。</p>
事務局	<p>一体型・連携型は、2つの事業の連携を図る、ということである。具体的には、放課後児童クラブの子どもが、ほうかごところの事業に加わることになる。そのため、一体型・連携型となっても、金銭的な負担は変わら</p>

会長 事務局	<p>ない。日々の活動の中で連携を深めて行くという趣旨になる。</p> <p>それならば、連携を深めていく、という表現が良いのではないか。表現については検討する。</p>
委員	<p>【重点事業6 ふるさと所沢親子で再発見事業 について】</p> <p>所沢郷土かるたについて、事業という表現が使われているが、事業とは違うのではないか。また、社会科の副読本には載せていないのか。</p>
委員	<p>今は副読本に載っていない。</p>
委員	<p>答申の出し方についてだが、6事業全体を通してどこに重点を置くべき、というような踏み込んだ内容を答申の中に入れても良いのではないかと感じた。</p>
委員	<p>【重点事業5 児童家庭相談事業 について】</p> <p>答申（案）の内容はこのままで良いと思う。ただし、幼少期からの早めの情報共有が実現できていない。連携という言葉はよく出てくるが、実態が伴っていない。行政の中で担当が分かれていることも原因としてあるのではないかと。</p>
会長 委員	<p>連携を仕組み化することが必要なのではないかとと思う。</p> <p>答申に、早めの情報共有・連携を進めて行く、という文言を盛り込むことで、行政は重く受け止めることになるので、良いと思う。</p>
会長	<p>重点事業への提案について、本日の審議を踏まえて事務局には答申案2の作成をお願いする。本日の議事3及び議事5の視察にて重点事業4の進捗管理を行い、委員の皆さんには後日意見提出をお願いする。</p> <p>それでは、議事（1）については、以上とする。</p>
会長 事務局 会長 委員 事務局 委員	<p>（2）開所時間について</p> <p>議事（2）開所時間について、説明をお願いします。</p> <p>事務局より、資料3に基づき、開所時間について説明した。</p> <p>それでは、今の説明について、質疑等いかがか。</p> <p>始まりの時間をもっと早く、という趣旨はないのか。</p> <p>今回は終了時間のみで、開始時間については対象外となる。</p> <p>開所時間が午後7時までとなった場合、国の処遇改善の補助金は受けることになるのか。</p>
事務局 委員	<p>補助金の要件に合致する。</p> <p>開所時間が午後7時までとなった場合の事業者側のデメリットとしては、現在、午後6時30分以降の利用にあたり頂いている料金が減ってし</p>

委員	<p>まうことが挙げられる。また、午後6時30分以降の有資格者の配置が必要になることにより人件費が増加する面もある。また、保護者のお迎えが遅くなることが予想される。</p> <p>子どもの生活リズムが崩れるので、これまで通り午後6時30分のままで良いのではないか。</p>
委員	<p>事業者としては開所時間延長により支援員の処遇改善に繋がるとすれば魅力がある。</p>
委員	<p>民生委員の立場からすると、親として子どもとの関わりをもっと意識してもらいたいと考えている。支援が厚くなるほど、親としての気持ちが薄くなっていくように感じる。忙しい親が多くなっているのは分かるが、基本は親が子育てをして、そこに色々な支援がある、という基本をしっかりとっておかないと、今後は、より大変になってしまうのではないか。</p>
委員	<p>今は開所時間が6時30分までだから、それに合わせて仕事を早く終わらせたりする保護者もいるはずだが、これは保護者が子育てを生活の中心として意識している、と言える。開所時間を6時30分までとしていることが親子関係にも大きく影響していることが想像できる。</p> <p>これに関連することだが、保育園は午後7時を過ぎると夕食が出るのに対して、放課後児童クラブは夕食が出ないし、そのための設備もない。それを考慮すると放課後児童クラブの開所時間は午後7時までが譲れない部分であると思う。ただし、アンケート結果によると、電車の遅延などで午後7時以降のお迎えになる場合が数%あるとのことなので、それが毎日となってきた時にどうするか、という問題もある。個人的なアイデアだが、夕食については子ども食堂との連携を考えている。</p>
会長	<p>本日の審議を踏まえ、委員の皆さんには後日意見提出フォームにより意見を提出していただき、それをもとに事務局が答申（案）を作成する。次回協議会の審議を経て答申として確定する。</p> <p>それでは議事（2）は以上とする。</p> <p>～議事3と議事4のため、説明員入室及び休憩時間～</p>
会長	<p>（3）重点事業の進捗管理 重点事業4「障害児支援事業」について 議事（3）重点事業の進捗管理 重点事業4「障害児支援事業」について、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>所管課であるこども福祉課より、資料4に基づき重点事業4 障害児支援事業について説明した。</p>
会長	<p>それでは、今の説明について、質疑等いかがか。</p>

委員	通所支援の支給決定を受けている子どもの人数について、平成24年度と30年度の実績を聞き逃したので、もう一度お願いしたい。
事務局	平成24年度は132名、平成30年度は9月末時点で568名。これは学校に通っている児童数になる。
会長	それでは議事(3)は以上とする。
会長	(4)「子ども子育て支援に関するアンケート調査票案」について 議事(4)「子ども子育て支援に関するアンケート調査票案」について、説明をお願いします。
事務局	議事4に関連する事項として、先日開催された「第2回所沢市子ども・子育て会議」について小沢副会長よりご報告いただきたい。
副会長	平成30年度第2回所沢市子ども・子育て会議が10月16日(火)に開催された。主な議題は2点あり、1点目は教育・保育施設等の利用定員等について、2点目は、アンケート調査票案について、である。 1点目については、平成31年度に向け、認定こども園、小規模保育事業、企業主導型保育事業での定員の変更等について、説明があった。小規模保育事業については、待機児童等が集中している低年齢児の保育枠確保のため、需要量に対して供給量が特に足りない地区において、既存施設の定員増を行う、とのことだった。 2点目については、子ども・子育て支援事業計画の基礎資料とするために今年度実施するアンケート調査票案について説明があった。子ども・子育て会議では、主に就学前児童用の調査票案について、意見交換を行った。調査票は国のたたき台を基本としており、事前聴取した委員からの意見を踏まえ、レイアウトや文言等をわかりやすく修正した、とのことである。また、今回の調査票に新たに追加された市の独自設問は、今年度子どもの貧困に関連して県が実施する実態調査と同じ設問を設定しているとのことだった。就学前児童用の調査票については、子ども・子育て会議での意見交換の後、承認された。小学生用の調査票は、本協議会で意見をいただきたい、ということで、調査時期についてもずらして実施されるとのことだった。詳細については、この後事務局から説明があるので、より良いものとなるよう、本協議会でも意見交換ができればと思っている。
会長	続いて、「子ども子育て支援に関するアンケート調査票案」について、説明をお願いします。
事務局	所管課であるこども政策課より、資料6-1、6-2に基づき、子ども子育て支援に関するアンケート調査票案について説明した。
会長	それでは、今の説明について、質疑等いかがか。

委員	アンケートに、手取り年収や、お金が足りなくて食料や衣類が買えないことがあるか、等の質問があるが、回答を得られるのだろうか。
事務局	これらの設問は、今年度県が実施する実態調査と同じ設問を設定している。このような経済状況について何う設問を設置するのは初めてのため、どこまで回答してもらえるか測れない部分もあるが、経済状況と生活実態の関係について分析することができれば、と考えている。
委員 会長	アンケートではなく、他の方法で情報を得ることはできないのか。 所得情報は個人情報なので、役所内部でも情報提供してもらうことは難しいと考える。所得等の設問は必要であると思うが、回答が任意であることを強調すべきではないか。
委員 事務局	前回アンケートは5年前に実施したが、回収率はどうだったのか。 前回の回収率は、就学前児童が58%、小学生55.9%、全体としては、57.2%だった。
委員	問16で、お子さんと将来の夢について話す頻度について質問があるが、頻繁に話す内容ではないと思う。
委員 事務局	この設問は親子の会話の回数を知るためにあるのではないか。 この設問は、所得の階層によって親子の関わりの違いを分析するためのものであり、県と同じ設問を設定している。
会長	行政のアンケートは、重く受け止められてしまいがちだが、子育ては身近な問題なので回答したいという意識はあると思う。
委員	前回のアンケート結果では、放課後児童クラブの利用率が、実態と大きく異なっていた。今回の設問の内容が、前回とほぼ同じであることが気になる。また対象地域が広いので、もう少し狭めたほうが良いのではないか。
委員	アンケート結果の数字については、回収率によって、どの程度信用できるデータなのかを意識して扱ってほしい。また、前回アンケートから小学校名を記入してもらうことにしているので、小学校を絞って分析できるようになっている。
委員 事務局	7頁に、放課後をどのような場所で過ごさせたいか、という設問があるが、選択肢に学校（校庭）はないのか。 選択肢に、学校（校庭）を追加する方向で検討する。
委員	問23暮らしの状況をどう感じているか、は心情的なものか金銭的なものか不明確に感じる。
会長	参考意見だが、属性等のプライベートな事柄を尋ねる項目は、アンケートの最後にあると回収率が上がると言われているので、今後は検討してはどうか。

<p>会長</p>	<p>(5) 視察 障害児支援事業「放課後等デイサービスきなこ」 議事(5) 障害児支援事業「放課後等デイサービスきなこ」の視察について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>これより視察に出発する。所要時間は1時間程度を見込んでいる。 □視察出発 障害児支援事業「放課後等デイサービスきなこ」 15:50~16:20 上記を約30分程度視察した。 □視察終了</p>
<p>会長</p>	<p>議事(5)は以上とする。</p>
<p>会長</p>	<p>(6) その他 議事(6) その他について、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(時間の都合により、視察先にて議事(6) その他 について説明を行った。)それでは今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いします。 重点事業4 障害児支援事業への意見提出については、11月22日(木)までとする。次回、第6回協議会の開催は、平成31年2月頃を予定している。具体的な日時は未定のため、決まり次第、通知にて連絡させていただきます。</p>
<p>会長</p>	<p>3 閉会 以上をもって、本日予定されていた議事は全て終了した。各委員のご協力に感謝する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>